

献

辞

1999年3月末をもって、岸悦三商学部教授が御退職された。先生はまさに大学、学部の中心的存在としてその歩みを体現された方であり、その御退職は重ね重ね残念である。ここに長年にわたる先生の御功績をたたえ、本号を先生の記念号として編むことで感謝の気持ちを表したい。

先生は神戸大学大学院経営学研究科在学中から本学の助手、講師として勤務され、1968年同研究科経営学・会計学専攻博士課程を満期退学されて、同年本学商学部助教授、1973年に商学部教授に昇任された。そして、1978年にはフランス会計史の研究で神戸大学より経営学博士の学位を授与された。また、1969年には日本会計研究学会賞を受賞された。

先生の御研究は、上記学位論文に代表されるようなフランスやイタリアなどの会計生成史を中心としながらも多方面にわたり、成果として膨大な業績をあげられた。その著作を繙いてみると、丹念な資料考証と論理展開の綿密さがうかがえる。先生は、原典にあたることの大切さと語学力の重要性を常日頃強調されて、学問への厳しさと謙虚さを説いて来られた。

一方で先生は、広島修道大学の今日の基礎を全力投球で築かれ

た。大学草創期から本学に対する御功績ははかりしれないほど大きいものがある。商学部長 3 期 6 年，大学院商学研究科長 2 期 4 年，短期大学部長 2 期 4 年，大学院研究科教務主任 7 年と，長期にわたって要職につかれ，多忙を極めながら本学発展のために獅子奮迅された。とりわけ大学院開設や学部・学科増設に関しての御苦勞は並大抵のものではなかったとお聞きする。

修道に岸教授在りと全国に知られ，本学会計学の伝統を確固たるものにした先生のゼミからは多くの学生が育ち，研究者も多数輩出された。また，会計を専門にした職業分野やビジネス界においても，多数のゼミ卒業生が第一線で活躍されている。教育，研究，大学行政の各部面でいずれも大きな貢献をされた先生には，本年 4 月本学名誉教授の称号が授与された。

グローバル化，規制緩和，環境保全など現代企業社会を象徴する問題が，会計学の分野にも大きな影響を及ぼしているようである。先生には御健康に留意され，ますます御活躍されることを心からお祈りして献辞としたい。

1999年10月

商学部長 川 本 明 人